

ふくしま みき
福島 未希さん

JICA 海外協力隊 2017 年度 2 次隊

派遣国：モンゴル 職種：理科教育

2022 年 5 月 22 日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています



相手信じ可能性認める

写真は、生徒たちが自ら企画したワークショップを開催している様子だ。中学生にもかかわらず校外の大人に自分たちで接触を試み、講演を依頼し、開催する。企画も運営も生徒が行う。教員の私は、課題を設定するだけ。きっかけを与えると生徒たちは精力的に活動し、成長する。

私は 2017 年に理科教育隊員としてモンゴルへ赴任した。当初は一人で躍起になり取り組んでいた。多分私は「自分が主役」と勘違いをしていた。しかし、私よりも知識や経験が豊富な同僚、モンゴル独自の実験や教え方、言葉が通じない私の話を最後まで真摯に聴き、温かく接してくれるモンゴル人の友達など、自分が知らない考え方や心豊かな人に出会い、思い直した。「こんな独りよがりの考え方がうまくいくはずがない」。同時にすごく恥ずかしかった。

「日本の方が進んでいるから」と相手を信じず、自分の考えや価値観をモンゴルの人々に無意識に押し付けていたのだ。協力隊で得られた一番の収穫は「相手を信頼して、自分とは別の可能性を認め、信じること」だった。自分以外の考え方を認め、受け入れる。世界をより彩り豊かなものにするためには、私一人の力だけでは変えられない。だから私は他の人と協力するのだ。

「日本の方が進んでいるから」と相手を信じず、自分の考えや価値観をモンゴルの人々に無意識に押し付けていたのだ。協力隊で得られた一番の収穫は「相手を信頼して、自分とは別の可能性を認め、信じること」だった。自分以外の考え方を認め、受け入れる。世界をより彩り豊かなものにするためには、私一人の力だけでは変えられない。だから私は他の人と協力するのだ。

帰国した私にできることは生徒たちを信頼し、その可能性を信じること。生徒の未来は明るく無限大。先行き不透明な時代に求められる能力を身に付けるであろう子供たちが創る将来は、今後も楽しみだ。



生徒が企画し、もみじ銀行から講師を招いて開かれたワークショップ